

# リーダーになる!

実践する上司学。

嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



**嶋津良智** リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

## 第61回 ドッジボールしない

言葉を一方的に投げつけるドッジボールをしてはいけません。会話の理想の形はキャッチボールです。受け取って投げ返しましょう。

しっかりと受け止める  
そして返すのが会話

会話はキャッチボールに例えられますね。つまり、会話とは、言葉というボールを受け取って、そのボールを投げ返すことによって成り立っているということなのです。当たり前のことのように思いますが、実際には受け取ったボールをしっかりと投げ返している人は意外に少ないものです。

白いボールを受け取って

いるのに、突然黒いボールを返球してしまっているのです。言葉のドッジボールと例えましょうか。次のような感じですよ。

「課長、今日の仕事は難しくくて、結構大変でした

よ」

「そんなこと言ってるからダメなんだよ。おまえの力が足りないから、難しいと感じるんじゃないか」

部下が、「仕事が難しかった」、「大変だった」と言っているのですから、まずは受け止めて、「そうか、それはお疲れさんだったな」、「どの辺りが難しかったんだ?」と返してあげるのが、正しい会話のキャッチボールというものです。

いるのです。しかし、それでは正しいコミュニケーションは成り立ちません。部下が上司の意見や見解を求めていることが明らかならば、その返答でも構いませんが、部下の話というのはその種のものばかりではありません。

### 言葉の意味 意識的に考える

部下に話し掛けられたら、意識的にどんなボールなのか、何色の、どんな形の、大きさはどれくらいのか、ボールなのかをしっかりと見極めるようにしてください。そして、受け取ったボールと同じボールをきちんと

と返してあげることが大切です。

ビジネスシーンに限らず、多くの人たちの会話を聞いていると、色も、形も、大きさも違う、実にさまざまなおボールが飛び交っています。

一度、意識して同僚、友人、他人の会話に耳を傾けてみてください。あまりにとっぴなやり取りが当たり前のようにに交わされていて、ちよつと驚くと共に、不思議に思うことでしょう。人のふり見てわがふり直せです。今一度、自分がそうはなっていないか、考えてみてください。

（『上司のルール』より転載）

